



平成 21 年 5 月 15 日

各 位

株式会社バルクホールディングス  
代表取締役社長 村松 澄夫  
(コード番号：2467 名証セントレックス)  
問合せ先：経理財務部長 笠原 誠  
電話番号：03-5649-2500 (代表)

### 特別損失の発生および業績予想の修正に関するお知らせ

当社グループにおいて、下記のとおり特別損失が発生いたしますので、その概要をお知らせするとともに、平成 21 年 2 月 6 日に公表しました業績予想を下記の通り修正しますのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 特別損失の発生およびその内容

##### (1) 関係会社株式評価損の発生 (個別)

(A) 平成 21 年 3 月期末の関係会社株式評価損		334 百万円
(B) 平成 20 年 3 月期の純資産の額	(A/B × 100)	828 百万円 (40.4%)
(C) 平成 20 年 3 月期の経常利益額	(A/C × 100)	△79 百万円 (—)
(D) 平成 20 年 3 月期の当期純利益額	(A/D × 100)	△201 百万円 (—)

当社が保有する株式のうち、連結子会社である株式会社バルクの株式及び日本データベース開発株式会社の株式への投資額について、実質価額が当社帳簿価額と比較して著しく乖離する状況になっており、事業環境から損益状況および今後の見通し等を勘案し、短期的な純資産価値の回復が困難との判断に至り、平成 21 年 3 月期の個別決算において関係会社株式評価損 334 百万円を特別損失に計上いたします。

##### (2) 貸倒引当金繰入額の発生

連結子会社である株式会社バルクおよび日本データベース開発株式会社に対する貸付金等のうち、回収可能性が不明なものにつき個別決算において 108 百万円を特別損失に計上いたします。

※関係会社株式評価損および貸倒引当金繰入額は、個別決算固有の処理であり、連結業績に与える影響はありません。

##### (3) のれんの減損損失の発生

当社グループは、経営理念でもある「価値創造」を展開していくために積極的な M&A の実施による規模の拡大を迫り、その結果、新たなグループシナジーを獲得してまいりました。しかし、近年の経済不況から今後の事業計画を見直したところ、日本データベース開発株式会社において短期的な純資産価値の回復が困難と判断したため、のれんの減損損失 39 百万円を特別損失に計上いたします。

##### (4) 減損損失の発生

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社の連結子会社が保有するソフトウェアについて減損処理を行い、56 百万円の減損損失を特別損失に計上いたします。

## 2. 連結業績予想の修正

(単位：百万円、%)

平成 21 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 1,096	百万円 △164	百万円 △145	百万円 △292	円 銭 △8,413.85
今回修正予想 (B)	1,083	△208	△194	△451	△12,978.59
増減額 (B - A)	△12	△44	△49	△158	—
増減率	△1.1	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 3 月期)	1,399	△85	△79	△201	△5,797.86

### 修正の理由

前回発表に対しまして、売上高は計画を12百万円下回る1,083百万円となる見込みです。

営業利益は、上記売上高の減少による影響やソフトウェアの償却などにより、計画を44百万円下回る208百万円の損失となる見込みです。

経常利益につきましては、営業損失の影響により、計画を49百万円下回る194百万円の損失となる見込みです。

当期純利益につきましては、上記1.(3)及び(4)の記載に加え、固定資産除却損10百万円を特別損失に計上したことなどにより、計画を158百万円下回る451百万円の損失となる見込みです。

これらにより、平成21年2月6日に公表した通期連結業績予想を上記のとおり修正いたします。

(備考) 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、様々な不確定要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

以 上